

—東総地区少年野球連盟大会規則—

—大会競技規則—

1. 最新年度「公認野球規則」「競技者必携」及び「大会特別規則」を適用する
2. 本大会規則は東総地区少年野球連盟主催の大会（大樹杯・ベネフィット杯・AmbitiousCUP（5年生以下）・JapanCUP（4年生以下）・木樽旗・ワールドハウス旗（5年生以下））に適用する
以下、6年生以下大会を「6年生大会」、5年生以下大会を「5年生大会」、4年生以下大会を「低学年大会」と略す

—大会特別規則—

【出場資格及びチーム構成】

1. 東総地区少年野球連盟（以下「当連盟」という）に登録しているチームであり、大会の、試合日程が他団体主催の他大会に関わらない事（ワールドハウス旗を除く）
尚、学校行事等に関しては各大会の抽選会時まで、当連盟に報告する事
2. 大会出場登録でのチーム構成は、成人者（20歳以上）による代表者・監督・コーチ（2名）・スコアラー・介護員（2名以内）と選手（9名以上25名以内）とする。ベンチ入り指導者（監督・コーチ）は、認定指導者有資格者、ハラスメント講習受講修了者とする
3. 部員数が8名以下（注1）のチーム同士の場合は連合を認める
連合は選手数が少ないチーム同士、数チームでも可能とする。連合チームの中の1チームの部員数が9名を超えても連合していた他のチームの選手数が満たない場合はそのチームの選手登録は救済措置として認める。但し、地域理事の承認をえることとする（ワールドハウス旗を除く）

※注1：部員数のカウントは各大会により次の通りとする

「6年生大会」：6・5・4・3年生の数を以てカウント

「5年生大会」：5・4・3年生の数を以てカウント

「低学年大会」：4・3年生の数を以てカウント

4. 前項に違反した場合は、没収試合として相手チームに勝利を与え、後日協議し処分を言い渡す
5. 特別な理由がない限り開会式に参加するものとし、違反したチームは出場できないものとする
（ワールドハウス旗を除く）
6. アナウンスを2名以上準備し、1名は試合中に球数を計測する
（ワールドハウス旗を除く）

【服装・用具】

1. 同一チームの監督・コーチ・選手は、統一されたユニフォーム・帽子・ストッキング（アンダーソックス着用）・アンダーシャツを着用する。代表者・スコアラー・介護員の服装は、スポーツが出来る服装（ユニフォーム、半ズボン禁止）、自チーム帽子を着帽し、靴は運動靴またはアップシューズとする
ストッキングはアンダーソックス着用が分かること
2. 背番号は、監督30番、コーチ29・28番、主将10番、選手は0番～99番とする
3. スパイクシューズの色は自由とし、全員同色でなくても良い（金属刃のスパイクは禁止）
4. ヘルメットは「JSBB」公認マーク入りで両側にイヤラップの付いたものをベースコーチ、ボールボーイも使用する
5. 捕手（控えも含む）は、マスク（スロートガード付及び一体化も可能）「SG」「JSBB」公認マーク入り・レガース・プロテクター・ヘルメット・ファールカップ（女子選手は除く）を着用する

6. 投手の守備を除き、選手（打者・守備）の手袋およびリストバンドの使用は認める
7. 使用球は全日本軟式野球連盟公認球「J号球」とする
8. サングラスの使用は競技者必携の通りとする
9. バットの使用制限を次の通りとする
 - ① 「JSBB」公認マーク入りのものに限る。但し、破損（変形）・加工バットの使用を禁止する
 - ② 一般用バットで、打球部にウレタン・スポンジ等の素材の弾性体を取り付けたバットの使用は禁止とする。尚、一般用バットであっても前記以外の木製・金属製・カーボン製・複合（金属/カーボン）バットについては使用制限を行わない
 - ③ 少年用バットの使用制限は行わない
10. ベンチ内では、組立椅子・机等の持ち込み、使用を禁止する

【試合開始前】

1. 第1試合は開始時刻30分前にそれ以降は3回終了後に監督・主将がメンバー表（4部）、指導者認定証、ハラスメント講習会受講証、野球規則、競技者必携を提出し、その際にジャンケンにて先攻・後攻を決める。
2. ベンチは、抽選番号の若番が1塁側、後番が3塁側とする
3. 試合前のメンバー交換後、次試合の両チームの先発バッテリーのブルペンでの投球を認める
4. 試合開始は前の試合が終了後、約30分後としシートノックも試合開始時間に合わせ後攻チームから開始し時間は5分間とする。但し、前の試合の遅れまたは天候不安定等が生じた場合は、短縮または中止をして試合を開始する。ノッカーへボール渡しをする選手は、ヘルメットを着帽のうえ、前方からの手渡しとする
5. 球場内に試合前においてバットの使用を禁止する。但し指導者による守備ノックはベンチ前に加え、シートノック前の外野付近における守備ノックを認める。外野付近で実施する場合は、両チームの選手が交錯しないよう、各チームの責任に於いて十分な距離を保つこと。なお、シートノック前の外野ノックを行う際は、指導者（ノッカー）が立つ位置を、1塁側 ベンチのチームは1塁側後方のファールゾーン、3塁側ベンチのチームは3塁側後方のファールゾーンとすること
6. 指導者立会いのもとの素振りは認める
7. 守備ノック・素振り・捕球補助等の行為を行う際は、選手・補助員（ボール渡し等）・指導者（捕球者等）を問わず、必ずヘルメットを着用すること
8. ワールドハウス旗に限り、試合前のバッティングを認める

【試合】

1. 大会の試合形式はトーナメント戦とし、1試合1時間30分6回均等回（低学年大会は1試合1時間15分5回均等回）で勝敗を争うこととするが、タイムゲームを最優先する。1時間30分（低学年大会は1時間15分）を超えたときは新しいイニングに入らずにその時点の得点を持って勝敗を決する。同点の場合は特別延長戦ルールを適用する。決勝戦も同様とする
2. 得点差によるコールドゲームは、3回均等回終了後10点差または4回均等回終了後以降7点差とする。決勝戦も同様とする
3. 日没・降雨によるコールドゲームの適用は、4回（低学年大会は3回）均等回終了後に適用する。4回（低学年大会は3回）均等回終了前、または4回（低学年大会は3回）均等回終了後の同点時については、継続試合とする（決勝戦も同様）
尚、ワールドハウス旗に限り4回均等回終了後の同点時については、抽選とする（決勝戦も同様）
日没・降雨の判断は、当該球場責任者・責任審判員が両チームの監督を招集し協議して決定する。
4. 上記2・3項における「3回又または、4回均等回終了」については、3回表または、4回表が終了した時点で後攻チームがリードの場合3回または、4回均等回終了とみなしコールドゲームを適用する。

5. 投手の変化球は禁止し、変化球に対してはボールを宣告する。再度繰り返した場合は、その投手は交代させる（その試合での再登板も認めない）
6. **同三塁または一塁のベースコーチが走者に触れる、またはつかんだりして走者の帰塁あるいは離塁を助けたと審判員が認めた場合、走者に対するアシスト(肉体的援助)と見なし、当該走者をアウトとする**
7. 死球等により手当が必要とする場合には、臨時代走（コーティシーランナー）を認める。代走は打順前位の者（投手・捕手を除いても良い）とする
8. 審判員に対するアピールは監督と当該選手に限り認める。また選手交代を行うときは監督が球審に申告する。試合中のメガホンの使用は監督に限り認める
9. 指名打者ルールを使用することができる
10. 投手の投球制限は下記の通りとする
 - (ア) 6年生大会&5年生大会
球数制限とし、同一投手の投球数は1日70球（特別延長も含めて）とする
投手は5・6年生とする。特例として4年生以下も認めるが、その時の投球数は1日合計60球とする
 - (イ) 低学年大会
球数制限とし、同一投手の投球数は1日60球（特別延長も含めて）とする
 - (ウ) ワールドハウス旗
投球回数制限とし、同一投手の投球回数は1試合4インニング12アウト（特別延長も含めて）とする
1日2試合の場合は、2試合目も同様とする（1日合計8インニング24アウト）
4年生以下の投手の投球回数は1試合3インニング9アウト、2試合目も同様とする（1日合計6インニング18アウト）
11. アウトを取る意思のない投手の塁への牽制・送球は遅延行為と見なし審判員はブークを宣告する
12. 申告故意四球を採用する
13. 相手チームに対して悪質な抗議・野次等を行うチームに対しては、当事者または代表・監督の退場を大会責任者・球場責任者・当該審判が退場を命じることが出来る。少年野球にふさわしい応援をする
14. **投手が投球動作（オンザラバー）に入ったら、攻撃側・守備側共に投手の動揺を発するような声を発してはならない。また、応援歌も禁止とする**
15. ベースコーチは、全ての大会を通じて選手に限ることとする
16. 1試合のタイムの制限は下記の通りとする
 - ・守備側の投手のところへ行く回数の制限は次の通り
 - ① 監督が行った時点で1回とする。但し、投手交代の場合は回数に含まない
 - ② 野手（捕手含む）が行った時点で1回とする。監督が行って選手を集めると監督回数1回、野手回数1回となる
 - ③ タイムは監督回数、野手回数共に1試合につき3回までとする。但し、低学年大会は1試合につき2回
 - ④ 延長戦は監督回数、野手回数共に1インニング1回とする
 - ⑤ 攻撃側のタイム中に守備側は指示を与えることができるが、攻撃側のタイムより長引けば守備側も1回カウントされる
 - ・攻撃側の回数制限は次の通り
 - ① 1試合につき3回までとする、**但し低学年大会（Japan杯）は2回までとする**
 - ② 延長戦は1インニングにつき1回とする
 - ③ 守備側のタイム中に攻撃側は指示を与えることができるが、守備側のタイムより長引けば攻撃側も1回カウントされる

17. 監督が投手と協議するときは、マウンドまで駆け足を励行すること。また選手への指示についても同様とする。尚、野球規則 5.101(2)は適用しない。(監督またはコーチが1イニングに同一投手のもとへ2度行っても自動的に投手交代とはならない)
18. 同一試合での投手と捕手の兼任を禁止する。(2027年度より適用)
19. 次打者席では素振りをしてはならない
20. メンバー表提出後、試合開始前の両チーム整列までの間にメンバー表に記載された先発出場選手が突発によりやむを得ず出場不可能となった場合、控え選手を交代出場させることができる。その場合、出場不可能となった先発出場選手の打撃順を受け継ぐが、守備位置の変更は認める。また、出場不可能となった選手は試合に出場しなかったことになり、回復すれば以後の試合に出場することができる

【特別延長戦】

1. 6回終了後または1時間30分(低学年大会は5回終了後または1時間15分)を超え、後攻の攻撃終了時点で同点の場合は、特別規則を適用し、直ちに「特別延長戦」を実施すること。
2. 打者は継続打順で、無死走者1塁・2塁(走者は順次前打者)にて、投球制限を遵守の上、1イニングを行い、点数の多いチームを勝者とする
1回で勝者が決定しない場合は、勝敗が決するまで継続打順にて、投球制限を遵守の上、繰り返し行う
3. 特別延長戦中の降雨・日没については全て抽選とする
4. 抽選方法は、球場責任者・責任審判員の指示に従う
5. 特別延長戦での選手の交代は認める。但しすでに交代した選手の交代は認めない
6. 全て決勝戦も同様とする

【審判規定】

1. 準決勝・決勝の審判は審判部が、その他の試合は各チーム2名の帯同審判
2. 審判員の飲み物に関しては各自用意する
3. この規定以外の必要事項は、審判員が球場責任審判員と協議して決定する

【東総特別規定】

1. 試合開始するまで、球場内へ大人6名(指導者を含む)の立ち入りを認める
2. 試合中に選手の記念を記録する“撮影”を、ベンチ内に入れることができる
3. 球場の開門時間は試合開始1時間30分前とする(開会式は除く)
4. 無資格者がベンチ入りする際は、救済措置として試合前に了承をえることとする